

会派代表質問

市民の安全、子ども達の安全

新政ネット

堀本孝雄 議員



問 侵食対策(白里海岸)の進捗状況について

答 九十九里浜侵食対策計画につきましては、令和2年から30年間の計画で、砂浜幅40メートルを確保することを目的としており、実施に際して、第一期実施計画では、汀線の後退が著しく侵食が顕著であり、かつ後背地に集落がある箇所や海岸利用が多い箇所から対策を実施し、対策を実施しない期間は汀線の変化を観測し、汀線後退が顕著となった場合は対策を実施することとされています。

現在、白子海岸、一松海岸、一宮海岸については、養浜工事を実施しており、本市及び九十九里町の海岸においては、地形変化を知る上で必要となる測量調査が令和3年度に実施されたところです。

今後については、地形や地質、生物などの追跡調査を行い、効果、影響を検証し、見直しを含め、関係者間で協議を行いながら侵食対策を継続的に行っていくと事業主体である県のお答えであります。

市としては、自然な形で海岸侵食を防ぐことが理想であることから、可能な限り養浜を拡大した上で、構造物の対策をお願いしたいと要望しているところです。

津波避難施設整備計画では、主に北今泉地区対象の北避難路、南今泉地区対象の中避難路に、高台などの施設設置計画があるがどうなっておりますか伺います。

針となっております。

市としては、その設備の重要性を認識していますが、財政事情を考慮すると早期の高台設備は困難と考えます。当面は津波避難ビルである白里ダイヤモンドマンション及びプラセル九十九里を活用しながら、また避難経路の安全確保のため、北今泉の北避難路の電柱のない区間に蓄電池式LED灯15基を設置、令和5年度に、南避難路の誘導灯の設置を計画しております。

問 北海道・三陸沖後発地震注意情報の運用が始まっているが、本市の対応はどうか。

答 注意情報は、後発する地震による被害を軽減するため、巨大地震が発生する可能性が高まっている場合に発表され、千葉県では、本市を含め14市町村が想定される地域に指定されています。この注意情報が発信された場合、その後1週間程度、平時よりも巨大地震に備える必要があります。注意する期間が終了するまでの間、すぐに避難できる態勢での就寝や非常持ち出し品の常時携帯など防災対応を呼びかけるとともに、自主避難を希望する高齢者等の要配慮者のために避難所を開設することとしています。

問 空き家対策の今後の取り組みはどうか。

答 空き家対策協議会の設置につきましては、本年第4回定例会での条例案の提案を予定しております。その後、今年度内に空き家対策協議会を設置し、対策計画の策定に着手していきます。

空き家対策推進に関する特別措置法の改正案が閣議決定され、内容は空き家所有者のより責任の強化、N

PO法人、社団法人等による利用拡大、固定資産税の特例解除等が盛り込まれているようです。特措法の改正によりさらに空き家対策が推進し易くなったと思われます。本市においても、本年度発足するであろう協議会における策定業務を的確にスムーズに進めるには、単に空き家の件数だけでなく、的確な情報管理が必要と思われるので、協議会の有効な資料づくりをお願いする次第です。

問 次に通学路との安全対策についてお尋ねいたします。

答 本市では、平成26年度に策定した通学路交通安全プログラムに基づき、毎年関係機関と連携して通学路の合同点検を行っております。その結果に基づき必要な安全対策を検討実施しております。

令和3年度に実施した緊急一斉点検については、対応が必要な危険箇所は26か所であり、24か所については、令和5年3月末まで全て対策が完了しています。残る2か所については、道路拡張等で、すぐに対応困難であるため、見守り活動や交通安全教育で対応しているところです。

関連質問



問 津波避難施設がまだ設置できない理由を再度お答えいただけますか。

答 津波避難施設整備計画に基づき残る2つの施設の整備が進まない理由は、財政事情によるものです。

財政事情と人命のどちらを重要視するのか!東日本大震災で多くの命が失われている。亡くなられた方々の無念の思いをしっかりと私たちはくみ取っていかねければならない。もしも万が一津波が発生し、多くの犠牲者が出た場合、「どうして造らなかったんだ」と言われて「お金がありませんでした」と言っのか。

理由にならない。ふるさと納税のお金もあり、やる気になればできるではないか!しっかりとやるべきことはやっていくのではないかと!

問 通学路の安全対策について、学校ではどのように指導しているのか。

答 小学校では実際に歩きながら、設置してある道路標識の意味などを学習したりしています。安全マップを作成して児童の危機回避能力を高めたりしながら、危険箇所等の情報が入った場合などは注意喚起や指導を行っています。中学生には自転車走行のルールなど指導しています。また、部活動の終了時間や下校時間においても、日没前に自宅に帰れるよう配慮したりしています。

通学路の安全対策は内外ともやらないとうまく機能しない。内は学校側による子どもに対しての安全・安心を図る指導、外では危険箇所を調べたりする地道な作業を行っていく。子どもたちの通学路の安全対策を私たち大人が一生懸命になり徹底的に対応していかなければならない。引き続き全力で行っていただきたい。

問 国道128号と白里地域の活性化についてはどうなっているのか。

答 国道128号では企業誘致条例などの大幅な見直しを行い、大型店舗店舗等が出店しやすい環境整備に努めてきました。また、国道128号の4車線化により、企業誘致条例に基づく優遇制度のPR活動を推進するとともに、沿道地域の活性化を図っていきます。白里地域の活性化ですが、地域交流拠点の整備を考慮しています。

企業誘致により、本市も発展しバイパス沿いも賑やかになる。また、地域交流拠点の道の駅だが、6、7割は地元利用、地元の方が利用しない限り経営は難しい。また私は28箇所すべてに見てきた。市職員が県内29箇所すべての道の駅を見なければダメなのだ!

個人質問

市民の声を届け誰もが楽しく暮らせる豊かなまちづくりの実践!

林 正清子 議員



問 市長の「道の駅」構想、具体案について

市長の道の駅については「観光交流拠点の整備を白里地区活性化の起爆剤に」との公約にあるが、基本計画策定から10年経過した「道の駅」整備について市長の構想、具体案をあらためて伺います。

道の駅構想になると、白里地区の活性化はもとより市全体の活性化に繋がる構想が求められ、他にも防災を兼ねた地域課題解決型の新しい道の駅構想も生まれています。

答 先の公約にも掲げましたが、人口減少や少子高齢化が進む白里地域に、1年を通して訪れることが出来る交流拠点を整備し、新たな賑わいの創出や雇用の確保、さらには観光振興など、地域全体の活性化に繋がっていきたくと考えております。地域交流拠点整備の取り組みを進めるに当たり、観光客など地元以外の方々を訪れていただくことはもちろんですが、何よりも地元の皆様に日頃から愛され、利用していただける施設でなければ、安定かつ持続的に運営していくことは不可能と考えます。

このため、まずは地元区長をはじめ、市内の商工事業者や農業関係者、水産加工事業者など、地域の皆様からニーズやご意見を伺って参りたいと考えております。

その上で検討委員会を組織し地元の皆様や検討委員会においていただいた意見や要望を踏まえ、白里地域の活性化のためにはどのような施設がふさわしいのか、課題を整理した上で適宜議会にも報告しながら丁寧に進めて参りたいと考えております。色んな角度から本市に合った「道の駅」構想。市民及び企業、市議

会、行政が三位一体となり、型破りに、かつ市長の力強さのもとに検討を重ねて、スピード感をもって本市の目玉になる道筋が出来ます様、私も貢献させていただきます。

問 千葉日報にも市として検討委員会を立ち上げると発表されていたが、従来通りでなく型破りな検討委員会が求められると思います。

高校生や社会人の現役で働く方々、様々な業種等これまでの委員会ではなくオンライン会議ありきで進めていけたら新しいものが生み出されるものと思います。

答 検討委員会設置の目的である地域交流拠点施設の整備方針や基本計画を策定するに当たりましては、広く多角的な意見が必要であると考えております。

なお、現時点での構成は、学識経験者・地区の代表者・関係諸団体の代表者・公募委員などを想定しておりますが、今後、地元区長をはじめ各種事業者や市民の皆様のご意見を伺っていく中で、検討して参りたいと考えております。

問 様々な助成金の活用など、資金調達、採算等の計画があれば伺います。

答 資金調達や採算等の計画は、施設の規模や内容によって異なるため、現時点ではございませんが、市の負担を少しでも軽減できるよう各種補助金の活用や、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行うPFI手法についても研究して参ります。

※ 他に、有事の際の各避難所対応について、大網白里市観光ビジョンについてなどを質問しました。